

編集後記

梅の花が散り、桜が満開の春も盛りの今日この頃です。

新しい年度が始まり、DPCの導入を始め医療改革(?)のみが十分な検討もされないまま急進しているような気がします。また、イラク侵攻もあり、株価は最安値を更新し続け、昇給はおぼつかず、元気のない暗い世の中でもあります。医療業界に不景気はありませんが、医療費削減を目指した行政改革により、医療経済の圧迫は正に“聖域なき”を地で行くものと思います。“医療こそ国民への最大のサービス”であるはずであり、医療費のみの行革は好ましいとは申せません。“医者が見離れた癌が治る驚異の健康食品”なるものが野放しとなり、これに毎月10万円以上使っている人も多く、2兆円市場とも5兆円市場とも言われています。国民を欺いて、弱り目につけ込みお金儲けをする悪徳業者を放置するのは困ったものであります。それにしても効きもしない高価な“薬”を買う人も買う人でもあります。古くは、深海ざめのエキス、ゲルマニウム療法、紅茶キノコ、尿を飲む健康法、最近ではメシマコブや米ぬか療法なるものもあり、その他　ワクチン、　感作療法、サルノコシカケ茸等、数え上げればきりが無い。本当に癌が薬で治る時代はいつくるのでしょうか。古江　尚先生に伺ったところ“現状ではおぼつかない”とのお返事でありました。化学療法の専門家でも見通しがたないようです。

癌は加齢現象であり、遺伝子変化の蓄積の結果であるとすれば、人類は癌の発生から逃れることはできない気がします。ひとりで5臓器に重複癌が次々と出現し、次々と手術してはまだ元気な人もいます。胃に2回、大腸に5回癌ができて、食道から小腸、直腸と吻合されている人もいます。加齢現象であるとすれば人は癌から逃れ得ないのでありましょう。それでは癌が治るようになることは人類にとって幸せなことでしょうか。年間“がん”で死亡する人は約30万人です。この人達が死ななくなったら日本の人口は急速に増加し、さらに、高齢者が増加するわけで高齢化が急速に進行します。生産性、再生性のない中枢神経系を始め諸臓器に障害のある高齢者ばかりの世の中となれば、人類は自ら滅亡せざるを得ません。人間年齢を重ね、全身諸臓器が衰えてポンコツ状態になる頃に、遺伝子変化も蓄積して癌が発生してくるよに神様がプログラミングしているようにも思われます。そうであればわれわれ外科医は神に逆らっているのでありましょうか。まだその肉体が十分に使用に耐え得る人達であれば、その故障(がん)を治すことを神は認めて下さるはずであります。そう信じて毎日の医療に精一杯の努力を重ねています。若い患者さんでも救命し得ない方もいるから、多少高齢の方でも元気な方は手術してあげたいと思います。ちなみに、私共の最高齢者は91歳の食道癌症例で「もう一度ご飯を食べたい。」とご希望があり、開胸開腹で手術して2年半の間会長職に復された方です。心から感謝して戴き、小生も達成感を満喫させていただきました。医師とは、医療とは、人生とは、生きるとは、と考えつつ皆様と共に頑張っていきたいと思っているこの頃です。

(幕内 博康)